

肢体不自由教育

1 目指す児童像

「自分らしく「人」「物」「社会」に関わり豊かに生きる子」

肢体不自由の児童生徒にとって、健康で心理的に安定した状態で生活し、人や物からのかかわりを受け入れたり、自分からかかわったりするなかで、自分の気持ちや考えを表現できる子が「豊かに生きる子」ととらえる。一人一人が「いつでも」「どのような場面、どのような場所でも」「誰とでも」活動し、表現できる力を育てていきたい。

2 目標

○小学部 ～興味・意欲～

- ・好きなことや物、遊びを増やし、楽しんで取り組むことができる。
- ・身近な大人や友達との関わりの中で、気持ちを表現したり、伝えたりすることができる。

○中学部 ～定着～

- ・できることを増やしたり、身に付けたりしながら、好きなことや物、活動に繰り返し取り組むことができる。
- ・周囲の大人や友達との関わりの中で、自分の気持ちを安定して表したり、伝えたりすることができる。

○高等部 ～広げる～

- ・様々な場面、場所で、自分の「わかる」「できる」力を発揮し活動に取り組むことができる。
- ・様々な大人や友達との関わりの中で、自分の気持ちを自分らしく伝えることができる。